

愛川町消防団第二分団 人情火消し

平成25年度
春号 (第10号)

発行 愛川町消防団第二分団
編集 人情火消し編集委員会



平成二十六年一月十一日 消防出初式

分団長あいさつ

高峰地区の皆様方には、平素より第二分団の消防団活動につきまして、格別のご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

昨年は、消防組(消防団の前身)が発足して百二十周年を迎えました。長い歴史のある消防団ではありますが、消防団を取り巻く情勢は刻々と変化しております。そのような情勢の中、我々第二分団は、火災時の消防活動に対する日々の訓練はもとより、今後必ず発生すると言われている巨大地震や年々巨大化する台風による風水害に備え、知識の向上を図るとともに、救急救命講習会を町消防署の協力のもと開催し、多様化する様々な災害に対応すべく日々より取り組んでおります。

また、高峰小学校の行事である「峰っ子フェスティバル」に毎年参加し、高峰地区の子供達へ災害に対する意識の向上を図り、さらには消防団がより身近な組織と感じられるよう広報活動を行うことが、将来の高峰地区の安心・安全なまちづくりに繋がっていくものと考えております。

そして、我々消防団員が消防団活動にいそむことができるのは、ご家族や地域の皆様の消防団活動に対するご理解とご協力のおかげであります。心よりお礼申し上げます。

今後とも、地域防災の要として各行政区の自主防災組織と連携を図り、災害に立ち向かえる体制の構築を目指して、消防団活動を行ってまいりますので、引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

愛川町消防団第二分団

分団長 高橋 篤史

副分団長 有賀純一朗

第二分団第一部 (三増区)



皆さんこんにちは。三増区を管轄する第二分団第一部です。
 高峰地区の皆さんには、日ごろから消防団活動にご理解とご協力いただき、厚くお礼申し上げます。
 さて、任期満了に伴い、長きにわたり消防団員として活動してきた2名の団員から消防団活動に対する感想をいただきました。

佐々木 秀幸 団員

三増地区を管轄する第二分団第一部の佐々木です。今期で二十年間もの間、消防団活動に携わることができました。この間は、地域の方々、消防署並びに消防団本部、各地域の消防団の方々といふれあう機会ができたことで、私にとって非常に大切な時間となり、その中には普段ではなかなか経験できないことも数多くありました。特に消防の技術を競う消防操法大会では学生時代のように汗をかきながら、くたくたになるまで練習を重ね、愛川町の代表として県大会、さらには全国大会に出場できたこと(当時は補欠でしたが)は、私自身の大きな誇りといふ経験になりました。
 また、部長という役職まで経験し、地域の安全、安心のため、自分よりも若い人達と共に警戒や訓練などに取り組めた貴重な経験を積むことができて、幸せに思います。

近年、各地域の消防団員の人材不足が問題視され、各団員の負担もかなり増しておりますので、地域の皆さんの温かいご理解、ご協力をいただきながら団員確保に努めていくことが、消防団に携わった私にできる活動になると思います。

宮田 秀朗 団員

消防団に入団したおかげで、地域の皆さんと知り合うことができました。消防団活動で得られる充実感や人とのつながりは自分自身の大きな財産になったと思います。
 また、職場や家族の理解と協力により、無理なく仕事と両立することができ、感謝しています。
 今後も、地域防災活動をサポートしたいと思います。

平成二十五年年度の主な活動

- 四月 性能検査、牛松山ハイキングコースの清掃
 - 五月 牛松山八十八夜祭、ごみゼロ・クリンキャンペーン
 - 六月 団員研修 他
 - 七月 諏訪神社祭り警戒、育成会盆踊り警戒
 - 八月 団員研修 他
 - 九月 諏訪神社祭り警戒、防災訓練
 - 十月 三増合戦祭り警戒、救急救命講習会参加
 - 十一月 秋の火災予防運動、峰っ子フェスティバル参加
 - 十二月 歳末火災特別警戒
 - 一月 消防出初式、どんど焼き警戒
 - 二月 団員研修 他
 - 三月 春の火災予防運動
- その他、毎月三回、消防機械等の点検を行っています。

第二分団第二部 (小沢区)



愛川町消防団 第二分団第二部 Aikawa Town Volunteer Fire Corps II-II

皆様こんにちは。小沢地区を管轄している第二分団第二部です。
 地域の皆様には日ごろから消防団活動にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。
 今号はいつ起こるか分からない災害に備え、日々の訓練などについてご紹介いたします。

消防団の活動

消防団とは、消防署と共に火災や災害への対応、予防啓発活動等を行う、消防組織法に基づいた消防組織で、団員は各々の職業(サラリーマン・自営業等)を持ちながら、災害等の際には消防団員としてその対応に当たっています。
 例えば、火事や災害が起きたら、消防隊員と協力して消火活動を行ったり、風水害等の際は、水位の警戒や土の積みなど、様々な災害対応を行うほか、災害時以外においても、災害に備えての訓練や所有機材の整備点検等もとより、災害予防広報や地域でのイベント参加などの活動を行っています。



救命講習

大切な人を、家族を、命を守るため、救命講習を受講し、心肺蘇生、自動体外式除細動器(AED)の使用方法や窒息の手当の方法などについての知識と技術の習得に努めました。

講習は「なぜ救命処置が必要か」という話から始まり、「人間の体の仕組み」や「感染症のリスク」などの座学を行いつつ、各班に分かれて「傷病者発見」→「周囲の安全の確認」→「意識の確認」→「周囲に声を掛けて、119番通報とAEDを依頼」→「気道確保」→「呼吸の確認」→「人工呼吸と胸骨圧迫」の繰り返しでAED到着まで「AED装着・解析・電気ショック」→「人工呼吸と胸骨圧迫」を再開、という流れで一人ずつ行いました。

心肺蘇生やAEDなどの応急手当は、経験がなければいきなりその場で実践することはできませんし、応急手当の技術を得るには、自分で実践して身につけるしかありません。傷病者を救うためには、何よりもまず、多くの人が応急手当の知識と技術をもつことが必要ですので、皆さんもいざというときのために、応急手当の知識と技術を身につけておきましょう。



第二分団第三部 (箕輪区)



合同訓練

皆様こんにちは。箕輪地区を管轄しています第一分団第三部です。日ごろより、箕輪区の皆様におかれましては消防団活動へのご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

これからも地域と密着した活動を展開していきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

昨年九月一四日に、第三分団第一部との合同訓練を実施いたしました。

愛川町の消防団は、消防団長を筆頭に、愛川地区を管轄している第一分団(六部)、高峰地区を管轄している第二分団(四部)、そして中津地区を管轄している第三分団(五部)の三つの分団(一五部)で構成されています。今回訓練を行った第三分団第一部の管轄は、上熊坂区及び春日台区となっており、私たち第二分団第三部の管轄(箕輪区)と隣接していることから、いずれかの管轄地域で建物火災等が発生した場合には、お互いの地域へ出動する間柄となっています。

こうしたことから、いざというとき、お互いの部が円滑に連携できるようにすることを目的として実施した

ものです。

訓練は、消防署において消防署員の厳しくも温かい指導のもと、「訓練礼式」、「ポンプ連結」など様々な訓練を実施しました。

「訓練礼式」は、消防団活動を行う際の基本所作(右向け右や敬礼など)のことで、参加者は初心に戻ったかのように取り組めたように思います。

その後、災害現場を想定して、水利から現場まで距離がある場合に行うポンプとポンプを繋いで送水する「ポンプ連結」や、ホースを二本に分岐して放水を行うなど、第三分団第一部との合同訓練は非常に実りのあるものとなりました。

このように、第二分団第三部では、今後も隣接している部との合同訓練を定期的に行い、万が一、災害が発生した際には、迅速的確に対応ができるよう努めてまいりたいと考えております。



第二分団第四部 (角田区)



滝ノ沢堰止板放水訓練

角田区を管轄している第二分団第四部、部長の成井です。

日ごろより角田区の皆様におかれましては消防団活動へのご理解とご協力をいただき、厚くお礼を申し上げます。

今回は、滝ノ沢堰止板における放水訓練や部初開催の「子供教室」を紹介したいと思います。

昨年度、角田区消防防災犯後援会様のご協力のもと、滝ノ沢堰止板を作成しました。今年度、この堰止板を使って、放水訓練を行いました。設置した四箇所全てでテストを実施し、放水できることを確認しました。今後、維持管理を適切に行い、スピーディーに放水することで、地域の消防対策の一助としたいものです。



子供教室

例年、地域の子供達を対象に子供警戒を行っていましたが、「消防団の消火活動についてもっと知りたい」とのお話がありました。それに応えるべく、今年度、「子供教室」を企画いたしました。教室を開催してみると、子供の飲み込みの早さにびっくりし、教えていて楽しくなりました。



ホース結合体験

ポンプ結合体験

ジェットシューター体験

水消火器体験

みんなで記念撮影

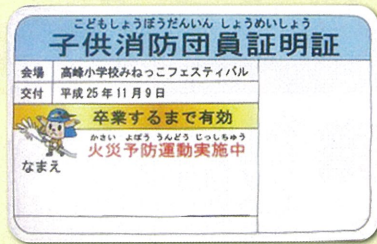
火点へ一斉放水!

消防〇×クイズ

おなじみの子供警戒

峰っ子フェスティバル

平成25年11月9日(土) 高峰小学校



「子供消防団員証明書」は大人気でした。

高峰小学校の学校事業であります「峰っ子フェスティバル」は、私たち第二分団も毎年参加させてもらっています。今回も子供達に放水体験をしてもらいましたが、消防団発足百二十周年を記念して大幅にバリエーションアップいたしました。

水利については、プールの水を使って、ポンプ二台、ホース四本の中央に、ひもでつるしたポールをセットし、火点(的)のことで、みにして放水してもらおうようにしてみました。

子供達は、受付で写真を一枚撮り、その後、消防・防災に関するクイズを解いてもらい、プールサイドに行くと放水体験！

放水中は、水が出ているホースは重いか、どこまで水が飛びのくか、いろいろな質問がありました。

放水体験後は、受付にて最初に撮った写真を貼り付けた「子供消防団員証明書」を発行しました。

多くの子供達に参加してもらい(史上最多!)、保護者の方も多く見られました。

編集後記

平成十七年の夏に創刊した「愛川町消防団第二分団 人情火消し」は、全くの素人の手作り広報誌として産声をあげました。

この創刊号には「消防団の役割や楽しさを広めることで消防団活動を理解していただき、安全・安心のまちづくりを目指していきたい」と記されています。



新入団員募集中です!

安全・安心な高峰地区を目指して!

あんなの広報誌に

目を止めてきましたキミ!



第二分団では、現在一緒に活動してくれる団員を募集しています。

「自分たちの地域は自分たちで守る!」という趣旨に賛同いただける方、消防団活動やボランティア活動に少しでも興味のある方、この地域に生活し愛着があれば、年齢や職業または出身が違ったとしても問題ないです!たくさんの方々が一緒になって、町の安全・安心のために活動しています。

消防団は、火災時はもちろん、今後心配される大規模な地震や、大雨などによる土砂災害など同時に各地で災害がおきた場合に非常に重要な役割を果たします。

「私たちは本心にキミの入団を待っています!」



愛川町消防本部
にまずは電話し
てみよう。
285-3131



第十号を迎えた今でも、当時の気持ちと変わらずに、消防団の動きをみなさんに伝え、知ってもらおうこと...自分の住んでいるまちの安全・安心は...困ったとき、何かあったとき...、それらを伝えるために「人情火消し」を発行しています。

今後とも皆様の生命・財産を守るため、また、地域のために活動する第二分団をよろしくお願いたします。